

## 最近の消費動向（月別概況・個別ヒアリング）

30年7～9月期の百貨店・スーパーの合計売上高は、8月を除き前年を下回った。百貨店では6月の大阪府北部地震や7月の西日本豪雨、9月の2度の台風などにより外国人旅行客の来店が減り売上高に影響した。スーパーでも台風などの影響で客足が減少し苦戦した。

コンビニ販売額は増加傾向にあり、家電販売額は9月に3ヶ月ぶりに増加した。新車販売台数は、9月に3ヶ月ぶりに減少した。個人消費は台風などの影響により、やや弱含みの動きが見られる。

### 月別概況

**7月**：（平年差）平均気温+2.1℃、降水量+111.5%

7月はバーゲンの前倒しや、連日の猛暑・上旬の西日本豪雨・下旬の台風12号といった天候要因などから、百貨店・スーパーともに前年同月を下回る結果となった。外国人旅行客数については、全体としては前年同月を上回ったものの、6月の大阪府北部地震や上記天候要因の影響により、これまで訪日者数の伸びを牽引してきた東アジアの一部地域で訪日需要が抑えられた。

百貨店では、高額商品や化粧品が好調なことに加え猛暑により日傘、帽子、サングラスやUV関連商品などが動いたが、天候要因や土曜日の1日減などが起因し売上高は19ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

スーパーでは、連日の猛暑が追い風となり、飲料・アイス等が伸長し、また、災害の影響で缶詰やカップ麺も伸長した。一方、衣料品・住居関連品はUV関連商品や扇風機、熱中症対策商品が伸長するものの豪雨や台風の影響が大きく月間を通じて苦戦し、その結果、売上高は前年同月を下回った。

**8月**：（平年差）平均気温+0.9℃、降水量-54.3%

8月は連日の厳しい暑さで盛夏商材が好調に推移した。外国人旅行客数は、全体としては前年同月を上回ったものの6月の大阪府北部地震や7月の豪雨の影響により、未だ一部訪日需要が抑えられている。

百貨店では、台風の影響・上陸があったが、富裕層やインバウンドが牽引し、売上高は2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

スーパーでは、野菜相場高が続く農産品や猛暑による熱中症対策商材が好調に動いた。一方で、季節寝具や殺虫剤等の季節商材は苦戦し、売上高は前年同月を下回った。

**9月**：（平年差）平均気温-0.9℃、降水量+131.5%

9月は月初に台風21号、月末に24号が大阪に上陸し大きな被害をもたらした。特に21号上陸時は国内消費への影響だけでなく、インバウンドの玄関口でもある

関西国際空港の閉鎖など、外国人旅行客にも大きな影響を与えた。その結果、これまで前年同月を上回り好調に推移してきた外国人旅行客数は、平成25年1月以来5年8ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

百貨店では、2度の台風上陸により多くの店舗で営業時間の短縮や休業を余儀なくされたことが響いた。国内の消費マインドが一時的に低下し、また、インバウンドに関しても関西地域計で外国人旅行客への売上高、件数ともに前年同月比を下回り低調であった（日本銀行大阪支店）。その結果、売上高は前年同月を下回った。

スーパーでは、台風の影響を受け客数が減少したことが大きく響いたが、相場高の野菜や震災特需の加工食品は好調であった。その結果、売上高は前年同月を上回った。

### 百貨店A社

9月は、台風21号の影響により関西国際空港が甚大な被害を受け、外国人旅行客の来店客数が激減したことに加え、国内の消費マインドも一時的に低下し苦戦した。しかし中旬以降は秋冬ファッションや高額品が好調に推移し、売上高はほぼ前年並みの実績となった。

**紳士服**：台風により消費マインドの低下はあったものの、ファッション感度の高い顧客や富裕層の消費意欲は高く、海外ブランドを中心に秋冬ファッションが好調に推移した。その結果、売上高は前年同月を上回った。

**婦人服**：秋冬のトレンドであるダウンコートや、チェックのアイテムは好調に推移したものの、台風の影響で客数が減少し売上高は前年を少し下回った。

**子供服**：子供服は、国内客への売上高は前年並みであったものの、外国人旅行客への売上高比率が比較的高いことから、台風の影響による外国人旅行客数の減少を大きく受けた。その結果、ブランドによっては前年の売上高を越えるものもあったが全体の売上高は前年を下回った。ランドセルについては、早期前倒しの影響により前年を下回った。

**宝飾・時計**：時計は、大きな金額の受注の商談が入ってきているが、売上高としては前年を下回った。ジュエリーに関しては国内富裕層が牽引する形で売上高は大きく前年を上回った。

**服飾雑貨**：化粧品は台風による外国人旅行客の減少というマイナス影響を大きく受け、前年を下回った。一方でシーズン雑貨は、雨の日が多かったため、雨傘が

大きく伸長した。靴はショートブーツやスニーカー、ローファーなどの売れ行きがよかった。

**食料品**：食料品は客数の影響を受けやすく、台風の影響で客数が減少したことが売上にダイレクトに響き、全てのカテゴリーで前年を少し下回った。

### 百貨店 B 社

9月の売上高は前年同月を下回る結果となった。月初・月末の台風21号・24号の影響による店舗休業や外国人旅行者の来店客数の減少が主な要因である。

**紳士服・洋品**：スーツやジャケットが動いたものの、洋品雑貨の動きは鈍かった。

**婦人服・洋品**：外国人旅行者の支持が高いラグジュアリーブランドが好調を続けた。ラグジュアリーブランドは洋服に限らず、バッグや財布などの雑貨類の売れ行きもよい。一方で、その他の婦人服は苦戦した。また、近年女性用スーツは需要が少なくなってきており苦しい展開となっている。

**子供服・子供用品**：外国人旅行者の支持が高い項目であるが、台風の影響で外国人旅行者が減少した影響を受け、売上高は前年を下回った。外国人旅行者に人気のブランドと国内客に人気のブランドには少し違いがでており、分かりやすいキャラクターや綺麗な色使いのブランドは特に外国人旅行者に人気である。

**宝飾・時計**：高級時計は、外商を中心とした国内富裕層に対する売上高が引き続き好調であった。その結果、売上高は前年同月を上回った。

**服飾雑貨**：外国人旅行者を中心に引き続き化粧品が好調であった。一方で婦人靴はマイナス基調である。女性がパンプスを履かなくなってきたり、ロングブーツの人气が低迷しているなど人気ファッションの移行や、外国人旅行者向けの需要がないこと等が要因である。

**食料品**：台風前日の駆け込み需要はあるものの、2度の台風による入店客数の減少が影響し売上高は前年を下回った。

### スーパー C 社

スーパーC社の9月の売上高は前年同月をやや下回る結果となった。客単価や買い上げ点数は前年を上回ったものの、客数が減少したことや、月初と月末の2度の台風上陸のマイナス影響などが響いた。

**衣料品**：月前半は気温高・台風21号の影響が大きく売上は低調であった。3週目は気温低下を受け秋物商材が動き始めるも、月末は再び気温が上がり、月を通して秋物商材の動きが低調であった。一方で、気温高もあり夏物在庫処分の半袖ポロシャツや婦人サンダルなどは好調であった。また降水量が多く雨傘などのレイングッズが好調で、災害需要のリュックも好調であった。

**食料品**：台風の影響もあり客数が減少したにも関わらず全てのカテゴリーで売上高は前年を上回った。相場高が続く農産は好調で、玉ねぎやキウイ、またテレビ放映の影響で舞茸が好調であった。畜産では引き続きサラダチキンが好調で、また台風21号、24号の影響でカップ麺、レトルト食品、レンジで温めて食べられるご飯など加工食品が伸長した。また、惣菜ではイベント後に固定客が増えた、からあげが牽引した。北海道地震の影響で牛乳等の欠品はあったものの、他の定番商品が動き、乳製品の売上高は増加した。

**住居関連**：月を通して雨天が多く、また客数が減少したこともあり秋物商材の動きは低調であった。一方で防災企画と台風影響が重なり、安全保護用品が伸長し、また震災特需で電池・防災関連、卓上コンロ、携帯電話バッテリーなどが売上高を伸長した。また、残暑が残る中、夏物寝具や扇風機といった夏物売り尽くしは好調であった。(山田 麻由)

### 大阪府の消費に関する経済指標

※Pは速報値を表す

(単位：百万円、台、%)

		30年	4月	5月	6月	7月	8月	9月
大型小売店計	販売額(全店ベース)	145,980	145,038	146,187	160,791	142,134	P136,894	
	(前年同月比、全店ベース)	2.9	0.1	2.5	▲1.9	1.3	P▲2.0	
	(前年同月比、既存店ベース)	3.5	0.9	3.3	▲1.0	1.7	P▲2.0	
うち百貨店	販売額	76,011	74,886	75,077	85,885	89,493	P67,188	
	(前年同月比、全店ベース)	8.2	3.0	4.8	▲3.4	5.2	P▲4.4	
	(前年同月比、既存店ベース)	9.1	4.5	6.1	▲1.7	5.2	P▲4.4	
うちスーパー	販売額	69,949	70,352	71,080	74,907	72,640	P69,526	
	(前年同月比、全店ベース)	▲2.3	▲2.8	0.3	▲0.2	▲1.3	P0.3	
	(前年同月比、既存店ベース)	▲2.0	▲2.7	0.5	▲0.1	▲1.5	P0.4	
コンビニエンスストア 販売額及び店舗増減	販売額(全店ベース)	66,381	67,424	69,054	73,312	72,271	P71,056	
	(前年同月比、全店販売額)	3.8	1.6	5.1	1.1	1.9	P5.9	
	店舗数(前年同月比)	1.1	0.9	0.6	0.5	▲0.0	P0.1	
乗用車新車販売	台数	16,055	16,433	18,820	18,854	15,806	20,789	
	(前年同月比)	2.9	▲0.5	▲7.6	4.6	4.3	▲7.6	
家電大型専門店販売	(前年同月比)	1.5	▲1.4	8.2	▲4.1	▲1.0	2.7	

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」。

【コンビニエンスストア販売額】経済産業省「商業動態統計」。

【乗用車新車販売台数】財団法人自動車販売協会連合会、財団法人軽自動車協会連合会。

【家電販売額】経済産業省「商業動態統計」。